

2023 年度第 28 回全国技術研修会・講演まとめ

講演題目:世界自動車生産市場の展望

～令和 5 年自動車世界生産予測半導体需給予測等について

講演者:S&P Global Mobility 部長 西本 真敏 様

講演日:2023/11/21 11:45-12:30

講演時間:45 分

書記:フックスジャパン株式会社 池田

添付資料:「2035 年 BEV vs. ICE 日系 OEM 戦略転換:トレードオフ、継続性、価値創造」

講演要旨:

ご講演の内容は、2035 年までの BEV と ICE の世界動向予測と、日系 OEM の取り組みについての考察である。

まず、電気自動車(BEV)と内燃機関車(ICE)の世界シェアのグラフは、大きく3つの転換点があったことを示している。①2015 年ディーゼルゲート事 ②2017 年米国トランプ政権は、自国優先主義 ③2020 年コロナパンデミック

2035 年世界電動化技術の普及予測の図は、BEV の伸び予想である。それは US,CN,EU の政府の政策にある。ただ、BEV は真の意味で CO2 の低減になるのか疑問がある。FCEV は水素タンクを安定的に製造できる会社が限られているのが現状である。

Herfindahl-Hirschman Index (HHI) BEV vs. ICE の図は、近い将来競争の激しい分野になることを示しており、ICE は寡占状態が発生することが予測されている。

世界三大市場が「BEV ありき」の保護主義的な政策と環境規制を具体的に示している図であるが、いずれも日系のシェアは伸びないと予測している。

2035 年出身国 OEM 別 BEV 普及ペースの図から、日系メーカーは追いつけないと断言されていた。①開発速度の差 ②スマホ感覚の車が好まれていることに対して追従できない ③3万ドルの車を作ることが無理だと予測(バッテリー)

伝統的OEMと新興的OEMの際はあれ毅然としている、その中でもトヨタは全方位作戦を取って

いることもあり、伸びは見込まれる。フォルクスワーゲンは中国での自社生産をあきらめたいらしい。

BEV 市場環境分析に基づく課題抽出の表からは、最新鋭の半導体の製造ができた場合、最も強い国になることが予測されている。時刻で算出できない鉱物は既に海外の算出場所(会社)を抑えているため問題にならないだろうとの予測有。

ICE が再び主役に返り咲く可能性は極めて低いことは明確との見解であった。

最後に、日系 OEM はその戦略を転換するべきであると力説されていた。

---

詳しくは、添付の発表資料を参照いただきたく、お願いします。

以上